

Kiko

ポズナニ

気候ネットワーク

〒604-8124 京都府京都市中京区高倉通四條上ル高倉ビル305 Tel: 075-254-1011 / Fax: 075-254-1012

〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3 半蔵門サウスフィールド 2F Tel: 03-3263-9210 / Fax: 03-3263-9463

E-mail: kyoto@kikonet.org (京都) tokyo@kikonet.org (東京) URL: http://www.kikonet.org/

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

2009年まであと1年、 ポズナニ会議開催！

ポーランドの古都ポズナニの中心部にある見本市会場で、2009年末の合意に向けた2013年以降の次期枠組みに関する交渉が再開した。世界から約9000人が参加。合意期限まであと1年と迫り、来年の本格交渉開始に向けた交渉がどこまで進められるのか、注目が集まっている。

今回の会議では、大きく3つの点について前進が必要だと考えられる。(1)本格交渉のベースとなるテキストづくり、(2)2009年合意を確実にする作業計画、(3)地球温暖化を止めるため、世界が目指すビジョンと先進国の削減レベルの共有化、である。

これらの議論は、主に2つの会議、条約の下に設置された「長期的協力行動に関する特別作業部会(条約AWG)」と、議定書の下に設置された「先進国の更なる削減に関する特別作業部会(議定書AWG)」で行われている。

条約AWGでは、開催前に発表された、これまでの各国が提出した意見をとりまとめた議長編纂文書(アセンブル・ドキュメント)を更新する作業が進められる。また、地球温暖化を止めるため、世界が目指す将来的なビジョンを話し合う「共有ビジョン」に関する議論が始まっている。しかし、初日、前回の会議で決まらなかった「共有ビジョン」のコンタ

クトグループの設置は、一部途上国の強硬な反対により一悶着あり、結局90分だけ開催されることとなった。

また、議定書AWGでは、先進国の削減可能性と削減幅に関する議論が行われている。

こちらの議論は、先進国が積極的に更なる削減を行うというリーダーシップを示すことで、途上国の削減行動を促すことができる絶好の機会である。にもかかわらず、2日目に開始されたワークショップで発表した日本を含むほとんどの先進国は、具体的な中期の削減数値や削減対策の強化について話さず、削減数値算出のための方法論や自分の国を考慮してほしいなどというものばかりで、途上国をがっかりさせた。

先進国は、これからの削減の幅について、2020年に90年比25~40%の幅で進めていくよう自ら提案して、議論を引っ張っていく必要がある。この点については、中期目標のない日本がとりわけ消極的なのは大きな懸念だ。

日本、化石賞1位、2位受賞

世界の環境NGOによるネットワーク気候行動ネットワーク(CAN)は、その日の会議で後ろ向きな発言をした国に「化石賞」を授与するというパフォーマンスをここポーランドでも行っている。

会議2日目には、日本が、1位、2位を受賞。受賞理由は、以下のとおり。

1位：条約AWGで行われた「共有ビ

ジョン」のワークショップで日本が発表した「2050年までに現行より50%削減」という基準年が、「1990年」ではなく「「現在比」」だったから。

2位：同じ場で、日本が進める対策として紹介した「ライフスタイルの変革」の意味について質問した中国に対し、意識改革が重要で、自分はシャワーを週7回から3回に短縮していると答えたから。(それで80%削減できるの?)

世界のユースによる会議も開催

11月29・30日の2日間にわたり、ユース(若者)による国際会議「COY(Conference of Youth)」が開催された(日本のユースネットワーク組織「エコリーグ」共催)。世界の約45か国から250~300人もユースが集まり、国境や言語の壁を乗り越えて議論を行った。日本からは5人が参加。勉強会やCOP14におけるユースの活動の検討に参加した。ユースは真剣に自分達の将来を考えている!

来週の休会日、月曜日に変更

イスラムの休日で、12月9日(火)を休会日としていたが、サウジアラビアの提案で、急遽、休会日が8日(月)に変更。来週は日・月と続けて会議は休み。みんな観光に行っちゃおう?

Kiko COP14/CMP4 通信 No.1

2008年12月4日発行

発行/編集 気候ネットワーク

川阪京子、平田仁子、伊与田昌慶

現地携帯: +48-798996651(川阪)